

箱根駅伝V2祝し、やまゆりポーク2頭を贈呈 ～青山学院大学陸上競技部へ～

相模原市の大野北地区まちづくり会議及びにこにこ星ふちのべ協同組合が、第92回箱根駅伝で往路1区から復路10区まで1位を守り、39年ぶりの完全優勝と連覇を果たした「青山学院大学陸上競技部」の健闘をたたえる優勝祝賀パレードとセレモニーを開催した。

記念品として、にこにこ星ふちのべ協同組合から県産の銘柄豚「やまゆりポーク1頭（約50kg）」を、「やまゆりポーク生産者協議会」から同じく「やまゆりポーク1頭（約50kg）」を贈呈した。昨年の優勝時は豚肉1頭分を贈ったが、今年はV2を記念し2頭分を贈呈した。セレモニーでは、同商店街の精肉店「肉のハッピー」植田憲司社長と、地元で「やまゆりポーク」を生産する(有)武相養豚の安西雄次社長が、目録の代わりに豚のぬいぐるみ2つを原監督と神野選手に手渡した。贈呈した「やまゆりポーク」合計100kgは、選手の合宿所や学生寮の食事などに活用される予定。

集まった大勢の相模原市民や報道陣を前に、原晋監督は「直前まで選手の不調など不安要素もあったが、学院らしい爽やかな走りが出て良かった」と話し、日頃の応援への感謝とお礼を述べた。主将を務めた神野大地選手は「前回優勝後は、チームとしてプレッシャーのかかる一年間だったが、箱根駅伝の完全優勝をチーム全員で喜びを分かちあえて良かった」と話し、「いつも練習でお世話になっている淵野辺の人たちと一緒に今日は盛り上げたい」と祝賀パレードを喜んでいる様子だった。



記念品の「やまゆりポーク」を原監督と神野選手に手渡した（左から原監督、安西氏、神野選手、植田氏）